

2019.10.31第7回地域共生社会に向けた包括的支援と多様な参加・協働の推進に関する検討会

クリエイティブな地域づくりの実践

～課題解決型思考から価値創造型思考へ～
愛媛県伊予市双海町山形県置賜地方2つの地域の事例から

一般財団法人地域活性化センター人材育成プロデューサー
地域活性化伝道師（内閣府）
地域力創造アドバイザー（総務省）
愛媛県伊予市移住サポートセンター「いよりん」業務推進アドバイザー

前神 有里 Maegami yuri

1

地域づくりは課題から入らない

課題解決型から価値創造型思考へ

課題解決型は問題を細分化する

巻き込まない⇒共感で集まる⇒可能性で未来を拓く価値創造

「課題」は解決しなければならない問題か、目指す姿か

悪いところ残念なところほど目に付く

いいところを見ようとする いったん受容してみる

交ざっていくと分野を超える(^^)／

2

2

創発とは

部分の単純な「和」にとどまらず「プラス α 」を生み出すこと
 その創造プロセスから新たな価値が創出されたりすること
 自前（持ち味を活かすこと）と自在（関わりを活かすこと）の
 組み合わせ・融合がカギ（c f.内発、外発）

by 大杉寛先生 （首都大学東京）

3

3

多様性のないところに創発は生まれない

異質×異質が新しい価値を生む「協働」

だけ・ばかり⇒複合・交差・交替・共生

強いリーダー⇒あいだをつなぐ人 しなやかさとのりしろ

カフェやコワーキングスペース

⇒「場」があちこちにできる効果⇒創発が生まれる

他地域交流、広域連携

タタカワナイ・キソワナイ・キョウセイシナイ

⇒応援しあえる関係性

偶然の効果・回復力（へこまない力）

柔軟・寛容・包摂・余白・`ゆるふわ”

4

地域の中のあたり前を切り出さない

- ○○に特化する戦略⇒インパクトはあってもバラバラになっていく
- つながっていることがあたり前なもの・ことを切り出していくことへの違和感
- 地域づくりも、福祉も、人材育成も。。。。。
- 本来つながった仕事を分担しているのに、解体して別物にしてしまう
- のりしろがないと生きづらい
- 生きづらさを抱えた人を置き去りにした地域づくりはあり得ない
- 障がい者/高齢者/子ども/認知症/病気治療中の人/////

5

愛媛県伊予市双海町の事例



6

6



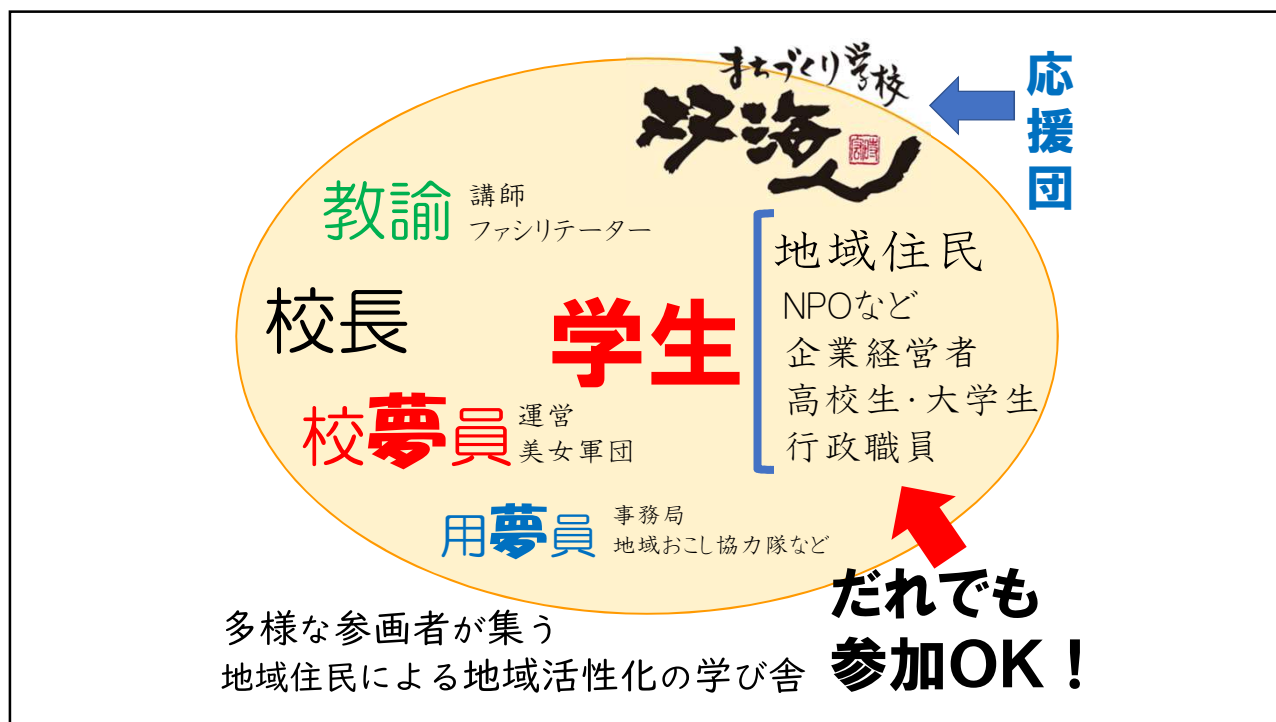
7

ふ るさとを愛し
た のしく学び
み んなが幸せになる

地域住民による
地域活性化の学び舎

おぐり学校
伊海

8



9

学校運営のキーワード

①多様性

年齢階層、職域、女性、若者、よそもの、学識者等

②対等・平等

組織、役職、立場等に関係なく

③オープン

わかりやすく、誰でも参加、他人任せにしない

④小さな社会実験から

まずはやってみる、小さくはじめる

多様な参画者⇒



10



11



12



13

双海人が移住に取り組むまでの道のり

- ・ 翠小学校を守りたい 母校がなくなるのはさみしい
- ・ トライアスロンきからっけにここに住みたい！4人家族
- ・ 子どもが増えるしあわせ ターゲットは子育て世代
- ・ キーパーソンは子育てがひと段落したお母さんたち
- ・ 若返り玉手箱～移住交流で学校を救え！～スタート
- ・ ひとづくりまちづくりの歴史が自信に
- ・ 33集落人口推計←衝撃的な事実の伝え方
- ・ 空き家調査←住民と地域おこし協力隊が表は、役所は裏に

15 → 22

14

2015年
広報いよし8月号

移住者の声
地域の声
学校の声
移住を後押しする声
市の政策

少子高齢化、若者流出により減少する人口。
そんな状況だからこそもう一度魅力を考える。
ひとりひとりのしあわせのために。
移住者がしあわせな地域は、地元の人もしあわせ。
地元の人がしあわせな地域は、移住者もしあわせ。
移住を通してぐらし全体を考える。
自分たちの理想のぐらしを求めて都会から伊予市
へやってくる人たち。
地域や学校を守りたい、元気にしたい、この地に
住み続けたいというふるさとへの思いをもつ地元
の人たち。
どちらもしあわせな伊予市へ。

特集 しあわせはきっと
いよしにある

—移住から聞こえる声—

私たちが住む伊予市
この地に何かを求めて、また魅力を感じて
移り住んで来る人たちがいます。
「移住」
その人たちが伊予市を選んだ思い
そして、後押しする人たちの思い
移住に関わる人たちのさまざまな声を聞きます。



15

訪問介護事業所開業



16

7月23日双海の日に6人移住



ぱんや 開店



17

食堂①：週2日開店



地元の人も続々

食堂②：週1回開店



18

いつも地域の人でいっぱい



19

四国初の米ぬか酵素風呂
& café



20

日用品・介護用品と笑顔と会話をお届け



喫茶&カラオケ
週2回ランチ営業



まちの広告
デザインは
おまかせ

21

下灘駅前に珈琲スタンドが



22



ぱんや107

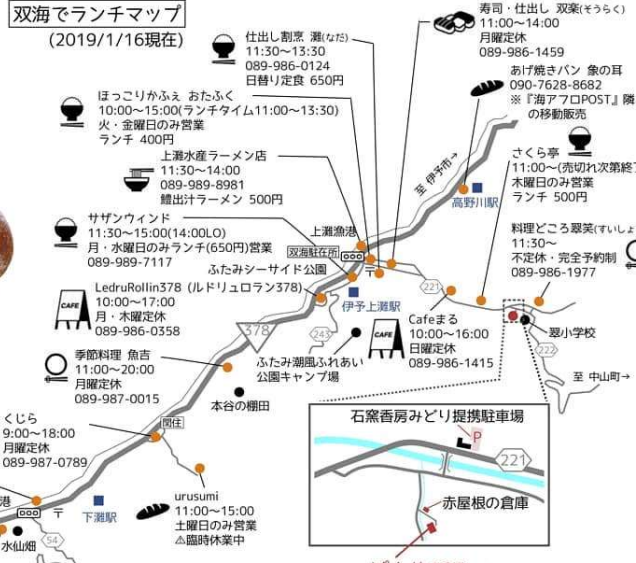
私たちは国産小麦100%の無添加生地で
パンを造っています





北海道産の良質な小麦だけを使い、イーストフード、製パン改良剤などの化学合成添加物を一切使用しない、お客様に安心して召し上がって頂ける無添加生地のふくらパンです

双海でランチマップ (2019/1/16現在)



ぱんや107(いちまるなな)
 Open 10:00~17:00 定休日は月曜日と第2・第4日曜日
 799-3202 愛媛県伊予市双海町上灘甲4051-1
 050-3636-8981
 bakery107@gmail.com
 fb.me/bakery107

23

地域のサロンを開設

介護保険に頼らず住み慣れた所で、お互いを支え合いならあたり前の生活が続けられ、誰でも気軽に集える場所を提供。

昔ながらの家と心と庭・・・
 そんな空間の中で、美味しい食べ物があり、おしゃべり、笑いがあり、歌声があり、自分の思いを訴えられちょっぴり泣ける所でもある。
 そんな温もりのあるサロン”はるうらら”を目指す。

ひとりで食べるご飯より、みんなで食べるご飯はずっと美味しい！
 手作りの温かいご飯とお茶でホッとしませんか？



24

この法人は、地域住民同士が助け合って高齢者向けの福祉事業や、若い母親を支援する事業、子どもの健全育成を図る事業等を行うことにより、地域福祉の充実と地域活性化に寄与することを目的とする。
この法人は、上記の目的を達成するため、次に掲げる種類の特定非営利活動を行う。

- 1.保健、医療又は福祉の増進を図る活動
- 2.社会教育の推進を図る活動
- 3.まちづくりの推進を図る活動
- 4.観光の振興を図る活動
- 5.農山漁村又は中山間地域の振興を図る活動
- 6.学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動
- 7.地域安全活動
- 8.子どもの健全育成を図る活動
- 9.経済活動の活性化を図る活動

この法人は、上記の目的を達成するため、次の特定非営利活動に係る事業を行う。

- 1.特定非営利活動に係る事業
 - 1.) 地域住民のコミュニケーションを活性化させるための事業
 - 2.) 若年層が住みやすい地域を創るための事業
 - 3.) 地域のたからを対外に発信する事業
- 2.その他の事業

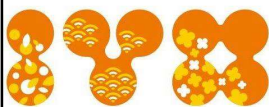
バザーその他の物品再販売事業

サロンを運営するNPO法人の活動内容

愛媛県伊予市移住サポートセンターいよりん 民間による移住相談ワンストップサービス テーマは「共に暮らせるなかまを求めて」



ますます、いよし。



伊予市



住民×いよりん×市役所

移住サポートセンターいよりんは伊予市が委託するワンストップ相談窓口
運営は（一社）いよのミライカイギ

【住民が運営する団体】

- まちの縁側ミュゼ灘屋（古民家をコワーキング&シェアオフィスに）
- （株）まちづくり郡中（中心市街地活性化、まち暮らし・起業・移住支援）
- （特非）住民自治されだに（自立した暮らしを实践する住民自治組織）
- まちづくり学校双海人（ビジネスで地域課題を解決しながら幸せに暮らす）

ゲストハウス、サロン、新規業種起業、地域での事業承継、地域経済循環、、

移住相談事例①

移住相談窓口に来た6人家族。

4人の子どもは妻の連れ子。夫にも前妻のもとに2人子どもがおり、
毎月養育費がいる。

4人の子どもは上から23歳、20歳、高校生、中学生。上の2人は働
いておらず在宅の様子。

家庭の事情でA市から住む場所を変えることになり、勤務先も県都の
B市へ変えた夫。

子どもはみんな大きいので一人一部屋ほしいが、6LDKのマンション
物件はなく、古い一戸建ての空き家なら、安い物件を斡旋してもらえ
るかもよと人から移住相談窓口を教えてもらったので来た。

移住相談事例②

外向きに実績としてPRするのは2割程度、残り8割は生活困窮等の相談。母子家庭、経済困窮、LGBT、地域での孤立、さまざまな理由で新たな住処を探している人がいる。そういう人が移住窓口に来たときに、我々が望む新住民ではないと断らない。

話を聴き、仕事を探し、事情の配慮を雇用主や地域の関係者にも得て、守秘義務も守れてという表に見えない様々な取次ぎをして何組もの移住を叶えてる。

DV被害からの避難移住母子は4組もあり、市民課、福祉事務所、様々なところの取次は移住担当課で行っている。この担当者は、自身の6年のケースワーカー経験が大いに役立っていると言う。

この市は、生活困窮者事業や共生の取組が特に進んでいるわけではない。

29

平成30年度過疎地域自立活性化優良事例表彰 全国過疎地域自立促進連盟会長賞受賞！！

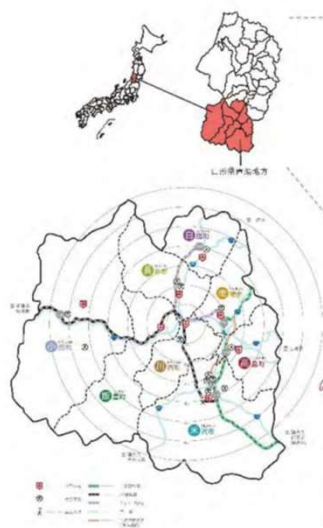


30

山形県置賜地方でやっていること おきていること

置賜地方ってどこ？

市町名	人口
米沢市	85,953
長井市	27,757
南陽市	32,285
高畠町	23,882
川西町	15,751
白鷹町	14,175
飯豊町	7,304
小国町	7,868
合計	214,975



置賜って
どの辺？

ヒゲの
トコ！

1



人と地域をつなぐ事業

スタジオ八百萬



2

ゆるふわ vol.1

カチッとしていることの対義語ではなく、単にルーズだということでもありません。ゆるいということは、いろいろなものが許され、包摂できる寛容さがあるということです。

ふわっとしているということは、あらかじめ見えていることを目標にするのではないからこそ、ふわっと見える。

でもだからこそ、表面的に進めてしまうのではなく、まだ無いもの、言葉になってないものを探索的にみんなで考えていくことで、形にしていける可能性があります。

ゆるくてふわっとした時間があるから、本質的なことを確かめ、それに向き合う勇氣も湧いてきます。これが、一番大事なことで、これからの社会に求められているのではないかと感じています。

by 坂倉杏介先生 （東京都市大学）

3

ゆるふわ vol.2

ゆる

開かれていて多様性があること。違いを超えてともにあること。

ふわ

まだ見えていない価値を模索すること。未来を志向すること。

⇒これまでの「地域おこし」の「型」に合わせるのではなく、一人一人が持ち味を発揮して生きること。自分たちの望む未来の暮らし方を実践し、そのために必要なまちをつくること。

by 坂倉杏介先生 （東京都市大学）

4

地域づくりとは

- 私たちはこの地域でどのように生きていきたいのか
- 私を生かして地域を活かす

目の前の壁は自分の中にある「思い込みの壁」

5

新しい時代の「まちづくり」は、
このまちで私たちがどのように生きていきたいかを考え、
それをともに実践することを通じて実現していく活動。
そのためには、これまでの常識ややり方にとらわれることなく、
いまここで起き始めている「未来」を感じとり、
（たとえ小さな一歩であっても）
その未来の一部としての私たちが何を実現できるのか、
アイディエーションとプロトタイピングを重ねること。

つまり、ゆるふわ。

一緒に置賜の未来を創り出しましょう！

by 坂倉杏介先生（東京都市大学）

6

6

スタジオ八百萬ではこんなことができます

- ・日替わりのカフェ ←飲食店営業許可
- ・チャレンジ酒場
- ・絵画や写真のアート作品販売
- ・整体
- ・メガネの検査と販売
- ・英語や多言語で交流する教室
- ・地域商品の開発
- ・ブランディングやマーケティングなどの各種講座



経営者の思い

やりたいこと、どうやってそれが出来るか考えることから既にチャレンジしてますね。
事業の企画や計画、ホームページやSNSでの発信、集客などなどをスタジオ八百萬がサポートします。
新しい事業がうまく行くには、人のつながりが大事。
スタジオ八百萬自体が、色んな人とのつながりで展開が広がっています。コワーキングスペースの人のつながりが事業の後押しになることもあるかも知れません。
空き店舗が次々うまれるのは、既存の商売が大変になって来てるからで、それを何とかするのも大事だけど、今は空き店舗や空き家が増える段階から、空き地が増える段階に入ってきています。
空き家や空き地が増えることはマイナスだけではなく、プラスの面もあるかも知れません。
まずは巡ってきたこの機会を、形にしたい。

7

助産師みえのよろずケア⇒ままでのて
お産より産後ケアがしたい
ママの応援と赤ちゃんのためのサロン



助産師みえのよろずケア
～産後のカラダをケアします～

2016/12/16 FRI
10:00-14:00
@studio800man

置賜四季のめぐみ便
東京北千住の商店街から置賜に嫁ぎ
2つのふるさとをつなぐ取組



8

大舟ワンダーランド



9

信夫町 ガーデンフェスティバル

イベント開催のご案内



みんなの想いが広がる、小さなお祭り

青年部による町内ビアガーデン復活したり
学生によるラジオ放送があったり、町外の人による出店があったり
そんなゆるやかなお祭り、是非お立ち寄り下さい。

8月31日(土)
12:00～16:00

※雨天時の場合

大会場を移して実施
となります。

主催：信夫町ガーデンフェスティバル実行委員会
（信夫町青年部、東京都市大学、置賜市、湯沢市、長岡市、上越市、新潟県）
後援：信夫町下町内会、協力：米沢市、湯沢市、長岡市、上越市、新潟県

信夫町ガーデンフェスティバル

スタジオ八百万のある信夫町下町内会は人口減少・高齢化により、毎年開催していたビアガーデンも数年前からできなくなっていました。空地も目立ちがらんとした町内を活かし、東京都市大学の学生と置賜人と地域をつなぐ事業のメンバーでガーデンフェスティバルを開催。大学生は準備・当日とも一軒一軒まわり、町内のみなさんに趣旨説明とご案内とヒアリングを。町内会長さんは、準備から反省会までフル参加。中学生も町外の友達を誘って遊びに来てくれました。道行く車から何度も凝視され、何週も周り見ていく人も。町内の人の記憶を呼び起こし、意欲をかきたて、よく会う人も減多に会わない人も新しいかわりが生まれ、青年層の活動の契機になりました。



10



11



12

大人の修学旅行@東京都港区

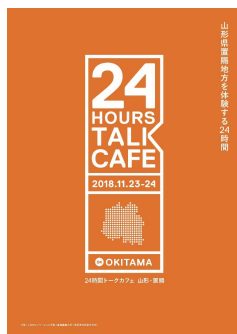


1

24時間トークカフェ置賜 港区芝地区と置賜のまだ名前のついていない交流

- ・地域づくりの先端事例を地方に学び、美味しい食べ物とともに地域に暮らす人と人が会うインターローカルな交流
- ・面積20.37km²に250,000人が住む港区と、面積2495.24km²に215,000人が住む置賜の交流
- ・異なる土地に暮らす人との、細く長いゆるやかなつながりのきっかけづくり。ある価値観や体験を共有することを通じて、心の友のような存在となる人に会えるような機会づくり。

2018年11月23～24日港区芝で開催しました！！



24時間トークカフェ × 人と地域をつなぐ事業
(港区芝地域) (山形県置賜地方)



2



3

遠隔自治体との連携による新たな地域の価値創造

30年度地域活性化センター全国地域リーダー養成塾に参加した置賜広域事務組合職員の書いた「木村レポート」をプロトタイピング⇒遠隔自治体間連携研究会

新たな価値を創造する職員

- ・課題解決型思考から価値創造思考への転換
- ・タテ割りからヨコ結いへ ナナメ・アイダを結っていく

越境する自治体職員

- ・行政の境界を乗り越え様々なネットワークをフル活用
- ・ヨコに広がる人材

これまでの友好都市関係を超える遠隔地連携へ 圏域×支所
関係人口という考え方の広がり

地方制度調査会圏域構想 圏域を行政主体として法制化する構想（総務省素案）

特別区全国連携の動き（港区は23区の中でも特に全国連携に積極的）

市民同士の交流から始まった港区と置賜の遠隔自治体間連携
まだ名前のついていない関係の可能性

4

変化に気づいてますか

自然、社会は変化・変動していく

これまでのやり方では窮屈

いまここで起きつつあるシステムチェンジ

日々の暮らしも、仕事も、まちづくり、地域づくりの常識も、、

！つ！つはつながっていく

SDGs、、、、、、

スマート自治体

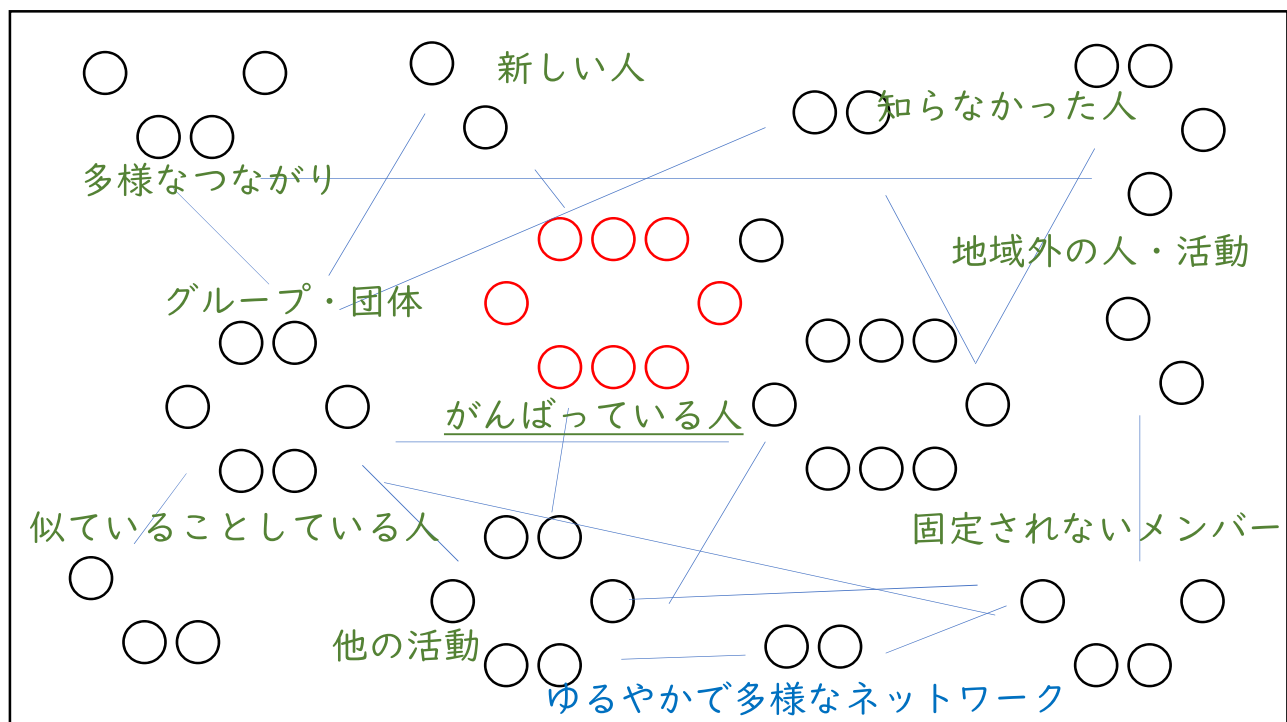
自分のウェルビーイングを知る

これまでの常識を手放して本当に実現したい未来を考える

ダウンローディング（過去の法則から考えないで上書きしていく）

⇒未来を生み出す

5



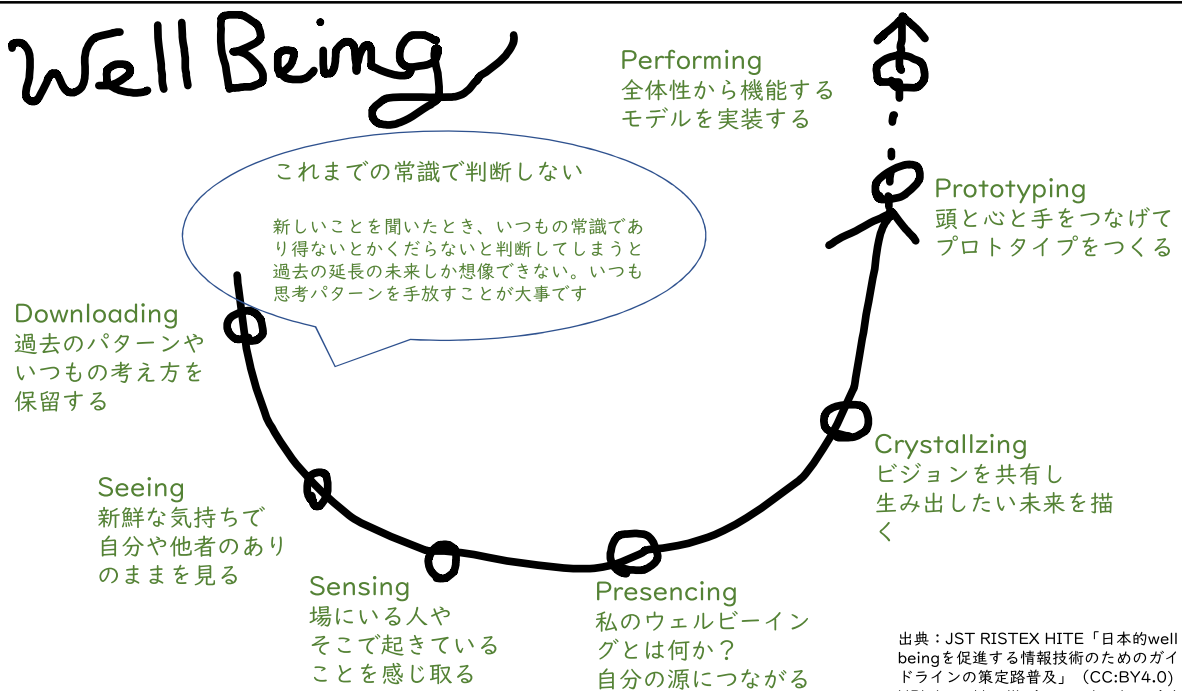
6

2つのパラダイム



7

Well Being



8

変化がおこるとき

いい方向へ

役割分担から入らない 経過を公開
責任持って臨むためにみんなで判断 情報は共有 解決へ向かう
権限はつなぐために使う 応援しあう関係 どんどん開いていく

よくない方向へ

ここまでと役割を先に決めようとする 結果を公開
責任を恐れる 悪いことは知られたくない より困難になる
権限を切っていくために使う 指導の関係 どんどん閉じていく

9



タテ割りから
ヨコ串へ？

ヨコは個性豊か
横串よりも
横結 (Weak Ties)

タテヨコだけ？
あいだもつなぐ
そんな人が
必要です

10